

2024年度の研究の軌跡

## 研究成果

### 赤嶺淳

#### 論文

- (1) 赤嶺淳, 2024a, 「マーガリンを食べながら——鯨油なき時代の油脂」, 湯澤 規子・伊丹一浩・藤原辰史編, 『入門 食と農の人文学』, ミネルヴァ書房, 129-140.
- (2) 赤嶺淳, 2024b, 「日本捕鯨史研究の課題と展望——あらたな母船式捕鯨業の船出を契機として」, 『社会科学』54(3): 1-27.

#### そのほか

- (3) 赤嶺淳, 2024c, 「ナマコと白檀」, 棚橋訓編集代表, 『オセアニア文化事典』, 丸善出版, 267-277.
- (4) 赤嶺淳, 2024d, 「好きこそもの上手なれ」, 『きわ』1(1): 1-2.
- (5) 赤嶺淳, 2024e, 「文明と未開——フェロー諸島における地域捕鯨の意義」, 『GGT ニュースレター』128: 2-4.
- (6) 赤嶺淳, 2024f, 「地域あつての地域捕鯨——キリスト教化と相互扶助」, 『Ocean Newsletter』584: 4-5.
- (7) 赤嶺淳, 2025, 「捕鯨研究の活性化を!」, 『GGT ニュースレター』129: 1-4.

#### インタビュー

- (1) 「クマがかわいそうだから殺すな」と抗議するのと同じ…クジラが「海の靖国問題」と呼ばれるようになった背景」, *PRESIDENT Online*, 2024年10月30日。〈<https://president.jp/articles/-/87459>〉
- (2) 「1本のバナナに想う、企業として、個人として、食をめぐる課題に向き合うことの大切さ」, *Fruits Smile Magazine*, 2025年2月28日。〈<https://www.dole.co.jp/magazine/0047>〉
- (3) 「聞き書き」というフィールドワークが浮き彫りにする、生々しい社会」, 『web 望星』, 2025年3月18日。〈<https://web-bosei.jp/?p=3969>〉

### 松浦海翔

#### 論文

- (1) 松浦海翔, 2025, 「〈あわい〉の狩猟者——「伝統的なマタギ」からの解放と、現代における自己イメージ」, 『現代民俗学研究』17: 1-16. (DOI: [https://doi.org/10.60192/slf.17.0\\_1](https://doi.org/10.60192/slf.17.0_1))

## 発表

- (1) “Human-Animal Relations in Ani-Matagi Society: Focusing on the Distinctions in Bear Hunting, Harmful Wildlife Control, and Wild Duck Hunting” (Navigating Human-Animal Dynamics in the North) Norway (1月)
- (2) “Bears as a Gift, Bears as a Harmful Animal: Diversifying Relationship Between Matagi and Animals” (Issues in Arctic Food Sovereignty: Japan, Nunavut, Siberia and Scotland) Scotland (1月)

## 講演

- (1) 「狩猟と駆除のはざままで——阿仁マタギの「よろこび」と「うれい」」(第12回 和田浦くじらゼミ) 千葉県南房総市 (7月)